

第4号  
平成23年  
3月

# 同窓会だより

山梨県立山梨高等学校同窓会

## 同窓会長 丸山 正一

例年になく厳しい寒さも終わりを告げ日毎に春の足音が近づいてきた今日この頃、同窓生の皆様方におかれましてはお元気で過ごしのこととお慶び申し上げます。

同窓会だよりも第4号になり、多くの会員の皆様方からの期待も高まり定着しつつあります。同窓会の唯一の情報誌として継続発展させていく為に会員の皆様方には魅力ある内容、枚数、配布方法などについて意見要望をお出しいただき、役員会や編集委員会に反映していく為の御協力をぜひお願いしたいと思います。会員の皆様方の更なる御活躍と御健勝を祈念いたします。

## 学校長 五味 一仁

例年になく厳しい寒さの冬でしたが、同窓会の皆様にはお元気で過ごしのことと思います。

さすがの冬将軍も、2月の半ばとなると泣々北に帰ったようで、辺りが春めいてきました。

さて、春を告げる卒業式や高校入試が迫ってきました。冬、寒さに閉じこめられていた若いエネルギーが迸るように溢れ出すのを見るのは、何とも心浮き立つ思いがするものです。

卒業式では全日制180名、定時制11名、計191名が卒業し、同窓生の皆様の仲間入りをいたしますが、気鋭の若者達です。どうぞよろしくお祈りいたします。

本年の卒業生を加えますと総数27,522名の卒業生を輩出したことになり、新制高校として、今回で63回を数える卒業式と共に、本校の伝統と歴史の重みを感じさせます。

また、高校入試ではすでに前期試験で57名が内定し、後期試験で133名が決定しました。

いずれもこれからの本校を担う、優秀な人材が入学してくるはずですので、どうぞ今後の母校の活躍を期待していただくと共に、絶大なるご支援をお願いします。

## 同窓会研修旅行

創立記念日の10月23日の研修会は、劇団四季による横浜キャッツの観劇を計画いたしました。各支部よりご協力をいただき35名の参加のもとに開催されました。

土曜日ということもあり、中央道・首都高速の渋滞を予測して、東名から横浜に入り車を進めてまいりました。

おかげで予定より早めに横浜市内に入り、中華街にてゆっくり昼食をとることが出来ました。

さて、このミュージカルは、セリフもなく歌とダンスでストーリーが構成され人間は誰ひとりとしてでてこないのです。

舞台は、年に一度の舞踏会、満月が青白く輝く夜街の片隅のゴミ捨て場、たくさんのジュリクルキャッツたちは長老猫が最も純粋な「ジュリクルキャッツ」を選ぶ舞踏会に参加するために集まってきます。

「人間に飼いならされることを拒否して逆境に負けず、したたかに生き抜き、自らの人生を謳歌と強靱な思想と無限の可能性、行動力を持つ猫」それがジュリクルキャッツです。

そして、新しい人生を生きることを許されるただ一匹の「ジュリクルキャッツ」に選ばれるのは誰なのか？

夜を徹して歌い、踊る、猫たちです。

やがて、夜明けが近づいた一匹の猫の名前が宣言されます。

その猫が、天上に昇って行くという幻想的なものでした。

この24匹の猫たちが語るそれぞれの生き様が表現されているのです。

それぞれの猫は、それぞれの人間にたとえられていること、そして、客席の一人一人が24匹のどの猫に似ているのか、そんなことを考えさせられる内容だったと思います。

キャッツの物語の深さ、楽しさ、感動する場面、美しい踊り、すべてが魅力的でした。

人間が気づかなかった猫の世界、そして客席と舞台が一体となったミュージカルを楽しむことが出来た研修会でした。

キャッツシアターの前で記念写真、そして、赤レンガパークを經由して無事に帰路に着くことができました。

楽しい一日を過ごすことが出来ましたのも添乗員さんの気配り、安全運転のドライバーさん、なごやかな雰囲気をつくりだしていただいたガイドさんに感謝いたします。

校長先生を始め学校関係者の皆様、同窓会各支部の皆様、ご協力とご参加を頂きありがとうございました。



平成22年度 山梨高等学校同窓会研修会 2010.10.23

## 奨学金授与式に臨んで

今年度の梨窓奨学生奨学金授与式は、昨年12月14日、山梨高校文化創造館に於て行われました。学校側からは、校長先生、学年主任、担任、奨学生と同保護者が出席され、同窓会からは正副会長及び支部役員が臨み、厳粛なうちに執り行われました。

本奨学金は、創立50周年記念事業の一つとして発足、同窓生有志の寄付金を基金としています。学業・人物ともに優れ、山梨高校生の模範となる生徒に授与され、本年も各学年2名、定時制1名の7名でした。

奨学生を代表して3年生の萩原慶太さんが、実に堂々とした立派な挨拶をされ感動しました。奨学生達は、校長先生、同窓会長様の激励の言葉通り、まさに勉学にクラブ活動等に地道に励まれている様子が、ひしひしと伝わって参りました。初心を忘れず更なる精進・飛躍をと、参列者一同心からエールを送って閉式しました。



## 同窓会入会式

春雨が大地を潤す2月28日、山梨高校体育館において同窓会入会式が行われ、全日制180名、定時制11名が入会いたしました。丸山正一会長より「同窓生としての自覚と自信を持って社会で活躍して欲しい」との歓迎の挨拶があり、新入会員の代表



岡ひとみさんが「伝統ある梨窓会に入会できて光栄です。梨高生としての誇りを持ち、それぞれの道に進んでいきたい」との決意表明がありました。続いてクラス理事の委嘱と記念品の贈呈が行われ、厳粛の中にも和やかな雰囲気の中で入会式を終了しました。新入会員の皆様の今後の活躍とご健勝を心よりお祈りいたします。

## 卒業証書授与式

3月1日、全日制180名、定時制11名が厳粛な式にて高校生活を修了いたしました。また、皆勤賞が17名に授与されました。

五味校長先生からは、先生が赴任された年と卒業生が入学した年が同じだったお話から始まり、「知識と教養を培い将来に向かってほしい。高校時代で得た友人は一生の財産である」の言葉が人生の礎として贈られました。その後の来賓、送辞、答辞では、低成長時代の就職難等、苦しい社会背景が取り上げられました。その中で、たゆまぬ努力と自分磨きで目標に向かえば、未来が開けるという話に共感しました。

学園祭に生徒達が掲げた「未来にジャンプ」のテーマなど高校生活の報告の中からも、諸先生方と生徒達の絆、誠実さが胸に熱く伝わってきました。皆様の繁栄と充実を願わずにはいられません。



# 学校だより

## インターハイに参加して

三年 菊島 友梨

「努力をすれば夢は必ず叶う」という言葉を、インターハイに出場し、結果を出したことから実感しました。夢を実現させるまでには、苦労したことが山ほどあります。高校に入学して初めて弓を手にした私は、知識や経験もなく一からのスタートであったため、最初は県内大会でも良い結果を残すことさえできませんでした。正直、辞めそうになったことも何度かあります。では、なぜ私がインターハイに出場するまで成長できたのかというと、先生や先輩、仲間、そして何よりも母の存在があったからです。

弓道は的を狙うための機具はなく、的中するかどうかは己の心が決めます。私の最大の武器は“精神力の強さ”でした。その精神力は他人の何倍もの練習量、弓道に対する気持ち、そして応援してくれた人たちの声で強くなったのです。

インターハイ当日、初めて大舞台を目にし、自分がその射場に立てる喜びと共に、山梨県代表のプレッシャーも感じました。とてつもなく体が震えました。その緊張の中でも“私の弓道”ができたのは、今までの努力と、みんなのために勝ちたいという気持ちがあったからです。最終的に決勝まで進み、表彰まであと一步の9位でした。ですが、力を出し切れたので後悔していません。

私は弓道から、強い心と沢山の仲間を得ました。このことは今後の人生に大きな影響を与えたいと思います。先輩たちには、伝統を受け継ぎ、更に山梨高校弓道部を発展させて欲しいです。

## 男子ハンドボール部の活動

一年 近藤 汰央

男子ハンドボール部は、今年度から部が発足しました。創部一年目ということもあり、私たちは新鮮な気持ちで、関口先生・村松先生・矢崎コーチのご指導のもと、「明るく・楽しく・真剣に」をモットーに、日々練習に取り組んでいます。全員が中学校時代からの経験者ですが、一年生ということもあり高校では全てのことが一からのスタートとなりました。初めはバラバラでチームとしてまとまりがありませんでしたが、毎日練習していく中で、徐々にチーム全員が丸となり目標に向かって活動できるようになりました。中学校時代とは違い、土・日は県外遠征に行く機会が多くなり、春・夏・冬の長期休業中には合宿が行われました。特に夏合宿はとて大変で猛暑の中、何百本もダッシュをしたり県外チームと練習試合をしたりと、とてもハードでした。しかし、このつらい合宿を乗り越えたことによりチーム全体の技術力や精神力がアップし、部員相互の結束力や信頼感も生まれました。

今年度は、大会で良い成績は残せませんでしたが、今後も日々の練習に真剣に取り組む、一つでも多く勝てるよう努力していきたいと思っています。また部活動だけではなく、日常の学校生活においても勉強や挨拶、服装などをしっかりして、山梨高校の模範生になれることを目標としています。これからも梨高生としての誇りと自覚を持ち活動していきたいと考えています。

## 梨美展によせて

二年 美術部部長 吉田 美和

10月11日から16日の6日間、私達はOBの方々と一緒に梨美展を開きました。油彩や水彩、彫塑や水墨画などさまざまな種類の作品を展示しました。

それぞれの作品を制作することはとても精神力が必要です。構図を考え、色を選ぶ中で相手にどういった印象を与えるのかなどいろいろなことを考えながら自分なりの作品を完成させます。そしてOBの方々から作品を評価してくれ、制作して気付かなかった所やその作品に合った技法など細かい所まで丁寧に教えてくれます。そのほかにもOBの方々の作品を見て、画材は何を使っているのか、何色で描いているのかなど細かい所まで観察して自分の今後の作品に生かせるようにしています。

今回の梨美展ではたくさんの作品を出品することが出来ました。自分の作品と他の人の作品を見比べて自分には無いものを見つけることが出来たと思っています。そして自分に足りなかった部分に、学んだ技術を生かしてみたり、部員などからアドバイスを受けてたりなど模索しながら自分の作品を作りたいです。梨美展ではたくさんの人が見に来て下さいました。今後ありきたりな作ではなく見に来て下さった方々に印象づけるような作品を制作できるように努力したいと思います。

## NHK杯全国大会に参加して

三年 放送部部長 岩間 拓也

6月12日(土) 甲府市リバース和戸で開かれた第五十七回NHK杯全国高校放送コンテスト山梨県大会で、私たち放送部は、ラジオドキュメント部門で四位に入賞し、全国大会の切符を手に入れました。作品は本校の大きな特徴であるノーチャイム制について取材したものを7分30秒以内という制限の中でまとめました。

作品作りは困難を極めました。どのような構成にしたら聴く人に伝わるか、何日も何日も悩み、そして、締め切り間際まで皆で話し合いながら編集をしました。そうした結果が入賞に繋がったのではないかとと思うと格別の喜びがあります。

全国大会は国立オリンピック記念青少年センターで7月22日から行われました。全国から184作品が四つの会場に分かれて発表されました。私達はセンター棟409号室で発表しました。作品が流れている間、一番前に座り非常に緊張して聴いていました。なぜなら、どの作品も題材・取材方法・編集技術や伝えたいことを表現する方法に工夫が見られ、さすがに全国大会のレベルは高いなあと感じたからです。

準決勝には各会場から十作品が選ばれますが、その中に本校の作品が入ることができませんでしたが、しかし、他県の作品を見たり聴いたりする中でとても勉強になりました。一つの作品を制作するのに、どの作品も大変な時間をかけて制作していること、じっくり構成を考えて制作されていることを感じました。こうした経験をもとに、後輩には皆で協力して、仮に入賞できなくても素晴らしい作品を作り続けていって欲しいと思います。最後になりましたが作品づくりに協力して頂いた先生方や生徒の皆さんに感謝を申し上げます。

## 千葉国体山岳競技

三年 河野 明理

私は10月、第六十五回国民体育大会の山岳競技に、山梨の代表選手として出場しました。前回大会終了から、この日に向けて練習していたのですが選考会で負けてしまい、関東大会へは補欠での参加になってしまいました。山梨は三位で国体出場を決めました。しかし関東大会終了から本国体までの練習で、選手交代が決まり、正選手として出場できることになりました。

それから一ヶ月は気を引き締めて練習に臨みました。大会当日、初日の競技は、十数メートルの高い壁を命綱を着けて登るリード競技です。この競技はスピードではなく高度を競います。相手が最終点まで行けるのは分かっていたので、私次第でした。高い所が嫌いで苦手な種目でしたが、相方や監督が直前まで声を掛けて笑わせてくれていたのでリラックスして登ることが出来ました。その結果、決勝戦へ進むことが決まりました。

二日目はボルダリング競技。比較的低い壁をより少ない回数で登ります。楽しみにしていた競技ですが緊張して思うように登れませんでした。しかし相方の頑張りでのこの競技も決勝進出を決めました。

最終日は決勝戦でした。両種目とも予選同様自分の力を出し切りました。結果、山梨チームは、リード4位、ボルダリング5位と入賞を果たしました。昨年より強者ぞろいのこの大会で入賞することができ、とても嬉しかったです。これからもう一層練習に励みたいと思います。

## 千葉国体に参加して

二年 小池 里美

昨年の9月26日から29日にかけて千葉県で国民体育大会が行われました。体操競技は、中学三年生から高校三年生の中で県から四人の代表を決めます。各学年から一名ずつが県選手権を勝ち抜きました。私は国体に参加するのが初めてだったので、通過が決まった時はとても嬉しかったですが、それと同じくらい不安もありました。

試合までは各自、各クラブで練習に取り組み、三回ほど合同練習をして試合に臨みました。開会式の日には、天気の心配もありましたが、無事に行うことができました。他県の方と交流することもでき、たくさんの方に応援してもらって気持ちが更に高まりました。

そして予選当日、前の日から四人ともすごく緊張していましたが試合になったら四人で応援し合い、とてもいい雰囲気の中で試合をすることができました。失敗も少しありましたが、予選を勝ち抜くことができてとても嬉しかったです。

決勝の日には予選ほど緊張はせず、楽しく試合をすることができました。失敗は多かったのですが順位は落ちてしまいましたが、四人で協力して次につながるいい試合ができて良かったです。

今回、国体に参加するのは初めてでしたが、いろいろな面で個人戦とは違う新しい事を学ぶことができ、とてもいい経験となりました。応援して下さったたくさんの方々に感謝し、今年も良い結果が残せるように練習に励みたいと思います。

## 夢への一步

一年 山崎 祐依



私は、県内新聞社主催のボーカリストコンテストでグランプリを頂きました。このコンテストの第一回があった時、私はまだ中学生で参加できなかったのですが、今年高校生になりやっと応募する事ができました。参加できただけでとても嬉しいのに、グランプリという素晴らしい賞にも選んでもらえてすごく光栄です。歌手になる事が夢の私にとって、夢に少しでも近づけた気がしてとても嬉しかったです。

私がこうしてグランプリを受賞するまでには、たくさんの人に支えられ、応援されてきました。新聞社、ライブ関係の方々、家族、先生、友人……。他にも応援して下さった方の支えがあったからこそ、こうして成功できたのだと心から思います。特に友達は自分の事のように喜び、応援してくれました。みんなは私の自慢です。コンテストをきっかけに、私と同じ夢を持った友達もできました。この機会をバネにさらに成長していきたいと思っています。たくさん支えてくれていた人達に恩返しするためにも、もっと努力し、夢に一歩ずつ近づいていきたいと思っています。

同窓生の方でご活躍している方がおりましたら、事務局までお知らせください。ご紹介させていただきたいと思っております。

〒405-0018 山梨県山梨市上神内川194  
山梨県立山梨高等学校 同窓会事務局  
TEL: 0553-22-1621 FAX: 0553-22-1623  
URL: <http://www.yamanashi.kai.ed.jp>